

2010 年度 I C U 夏期日本語教育 コース報告

C1		セクション A, B
I 担当講師名		
A: 貴志佳子 (コースヘッド)、渡部萌子		B: 川口真理子 (ヘッド)、井本美穂
II 学生のうちわけ		
学生数 AB ともに 20 名		AB ともに: 男性 4 名・女性 16 名
国籍 A: カナダ 3 名、アメリカ 2 名、中国・ブラジル (日本国籍も持つ)・インドネシア・ドイツ・イギリス・ベルギー・フィンランド 各 1 名 B: アメリカ 2 名、アルゼンチン 2 名、ベネズエラ・デンマーク・フランス・インドネシア 各 1 名		
III 教材 (書名、扱った課の番号など)		
主教材	Japanese for College Students, Basic Vol.1	
副教材	(参考・抜粋) げんき I、日本語の教え方スーパーキット、「新日本語の基礎」の絵カード、日本語かな入門 (国際交流基金)	
視聴覚教材	わくわく文法リスニング、毎日の聞き取り 50 日 (上)、楽しく聞こう I、ヤンさんと日本の人々	
IV コースの目標		
聞き: 簡単な日常会話が理解できる 話し: 自己紹介、買い物ができ、日常生活等について話せる。クラスで短い発表ができる。 読み: ひらがな、カタカナ、漢字 (158 字) で書かれた簡単な読み物を読んで理解できる。 書き: ひらがな、カタカナ、漢字 (80 字) を使って、自己紹介、日常生活、日本での経験、夏の予定等について作文が書ける。ビジターセッション参加者へのお礼状が書ける。		
V 評価の基準		
レッスンテスト	4 回	20%
口頭試験	4 回	10%
聴解試験	4 回	10%
期末試験 (文法、読解/作文、聴解、口頭発表)		20%
小テスト (かな、漢字、単語、文法ディクテーション)		10%
宿題		10%
作文	4 回	10%
ロールプレイ		10%
VI 授業の構成 (1 週間/1 課のうちわけ)		
2 日 (6 コマ) で 1 課ずつ進める。最初の 4 コマを文法練習に費やし、5 コマ目でロールプレイと聴解練習を行い、最後のコマを、漢字の書き方の練習と読解練習、時間の余裕があれば短い作文を書く時間にあてた。基本的に 2 課終了した時点で、テスト (文法、読解、作文、聴解、口頭) を組み込んだ。(4 週目だけは 3 課分のテストとなった) テストの前には、復習の時間を 1 コマ設けた。セクション AB 共に同じスケジュールで進めた。		

VII 授業の内容	
	<p>教科書のフォーメーションを中心に文型を学び、基礎の練習で定着をはかってから、日常生活で使えるように場面を設定してドリルの応用練習を行った。その後、ロールプレイの時間では、各課での目標が達成できるよう学習した文法項目を使って実際の場面での会話を行った。また、聞き取り練習も行った。読みに関しては、教科書の本文を内容把握してから精読した。また、スーパーの広告、メニュー、時刻表等も活用。漢字は、各課の1コマ目に読み方の導入、漢字カードで読む練習を数回行い、その後、書く練習をした。教科書の内容に関連したトピック（自己紹介、日常生活）の短い作文を計4回書かせて、修正した原稿をクラスのウェブサイトへ書き込ませた。この作文を基にして、最終発表の原稿を準備させた。また、ビジターセッションの後、会話ボランティアの方へのお礼状も書いて送った。</p> <p>ロータリーの学生だけからなるセクション B も基本的には同じ内容で進めたが、次のような特別な配慮をした。かなの練習を定着するまで行う、各課ごとに品詞別の語彙リストを作成、配布。また、練習時に使う単語の数を限って基本的な文法の修得を目標とする。キーセンテンスの音読を用い文法項目の復習、そして、校外学習、ビジターセッション等の準備は予定された授業日より一日前から準備を始めるというように一つ一つ丁寧に対応した。</p>
VIII 校外学習	
日 時	7月23日(金)
行 き 先	武蔵境駅周辺
活動内容	<p>校外学習は、日本語での情報収集、そして町の日本人と日本語で交流することを目的に、武蔵境駅周辺でのオリエンテーリングをした。学生は2人または3人グループで、駅で運賃を調べる、交番で道を聞く、郵便局でハガキを買う、バス停でバスの行き先を聞く、公衆電話から講師に途中経過を報告するといったタスクを行った。また、グループごとにスーパーやユニクロなど異なった店（講師が前もって選定）に行き、後日店の営業時間、様子、商品や値段などを発表し合った。暑い日だったが、学生は2時間以内に無事タスクを終わらせた。それまでに習った文法や語彙を授業の外で使うことで、学習への動機付けになったと同時に、学生は十分に楽しめたようだった。</p>
IX 総括（良かった点、反省点、特色ある活動、今後の課題等）	
<p>A: ABのクラス分けは、セクションBにロータリーの学生8名すべて、Aにはロータリー以外の学生という構成にした。セクションAの学生は、学習意欲が高く、非常に真面目に取り組んだ。期間中は、努力家ゆえに無理をして体調を崩してしまう学生が数名いたが、保健室に丁寧に対応していただいて無事に終了を迎えた。（貴志）</p> <p>B: ロータリーの学生は全くの初心者だったが、知的にも精神的にも成熟したすばらしい人達だった。何回か欠席した学生や途中で体調を崩した学生はいたが、一人も途中でやめずにコースを終了できてよかったと思う。（川口）</p> <p>共通の総括（良かった点）</p> <p>1) 3課から、教科書のフォーメーションを予習型の宿題とした。学生には負担のある課題ではあったが、努力して取り組んだ学生にとっては、学習事項の理解と練習が自立して行うこ</p>	

とができ意義のあるものとなった。

2) ビジターセッションは2回行い、学習した文法事項を使えるトピックを準備してそれについて話すようタスクとして課した。学習した内容が実際場で使えることに意義を見だし学習意欲が高まると共に、積み重ねができていくことを知り、喜びや自信につながった。セクションBでは、一日多く時間をとって丁寧に準備を行い、学生と会話ボランティアの方からのフィードバックを聞いてクラスで共有し、意義のある活動となった。

3) セクションAでは個人指導時に、余裕のある学生には、自分に必要な力を伸ばす個人プロジェクトを勧めた。話す力を伸ばしたい学生は、ホームステイ先の家族等の日本人にインタビューをしてまとめたり、表記の練習が必要な学生は、レストランのレポートをブログ形式で書いたりした。プロジェクトはクラスのサイトにのせて、ビジターセッション時に発表を行った。

(反省点、今後の課題)

1) 8課と9課はテ形と普通体の活用に加えてその他の文法項目が一度に出て来るため、もう1コマ増やす配慮や、また、最終週の復習の時間を効果的に使う対応ができれば、更に運用力をつけられたと思う。

2) コース開始時点で仮名を予習してきているもののきちんと習得できていない学生に対しては、比較的余裕のある第一週目を有効に使い、素早い対応が必要であった。また、発音の癖がみられる学生がいたが、個人指導の時間をもっと活用して対応できればよかったと思う。

3) セクションBは、文字や基礎的な文法事項の習得に授業時間を割いたため、応用練習が十分にできなかった。また、「授業で十分練習しなかったことが試験に出た」「自分のスピーチ発表は(セクションB内では)いいと思っていたのに、期待したより点数が低かった」という不満が出た。今回能力別のセクション分けをしたことで見えてきたメリットとデメリットが、今後少しでも参考になればと思う。

(川口・貴志)

C2	
I 担当講師名	
小島祐子(コースヘッド)、小野由美子	
II 学生のうちわけ	
学生数 16名	男性 7名・女性 9名
国籍	
アメリカ 11名、中国 3名、台湾 2名	
III 教材(書名、扱った課の番号など)	
主教材	Japanese for College Students: Basic vol.2, Kodansha International
副教材	自作プリント、げんき I, II (参考・抜粋) レベル別日本語多読ライブラリー
視聴覚教材	わくわく文法リスニング、初級毎日の聞き取り 50 日 星新一「ショートショート」(DVD)

IV コースの目標	
さらなる文型、語彙、漢字（150字）を習得し、日常生活レベルのことを話し言葉、書き言葉、両方において表現できるようになること。	
V 評価の基準	
レッスンテスト 4回	20%
中間試験	15%
期末試験	20%
最終プロジェクト（ガイドブック・口頭発表）	10%
小テスト（漢字テスト、単語テスト）	10%
宿題	5%
口頭試験 2回	10%
作文 5回	10%
VI 授業の構成（1週間／1課のうちわけ）	
<p>1) 基本的に一週間で2課ごと進むようにしたが、3週目には中間試験とビジターセッション、4週目には郊外学習、6週目には発表と期末試験を組み込んだ。</p> <p>2) 1課につき2日（6コマ）を費やした。内訳は以下の通り。</p> <p>1コマ目 : 漢字・語彙</p> <p>2～4コマ目 : 文法（導入、説明、フォーメーション、ドリル）</p> <p>5コマ目 : ロールプレイ、聴解練習</p> <p>6コマ目 : 読み物と作文（作文は2課に1回）</p> <p>3) 単語クイズは初日の一コマ目、漢字クイズは二日目の最初の時間（4コマ目）に行った。</p> <p>4) レッスンテストは11-12課、13-14課、16-17課、18-19課、計4回行い、15課と20課については中間試験、期末試験に組み込んだ。レッスンテストの日は1時限目に復習、2時限目にテスト、3時限目には適宜活動を行った。</p> <p>5) 中間試験、期末試験はその日の一時限目に行い、スピーキングテストを二、三時限目に行った。なお、スピーキングテストと同時進行でクラスでは適宜タスクを与え、学生がそれぞれ作業を行えるようにした。</p>	
VII 授業の内容	
聞く	聴解練習の他に授業中のクラスメートの発言に耳を澄ますよう指導し、相槌などを入れながら相手の言っていることに興味を示し、質問を加える練習を多く取り入れた。
話す	文法を導入した後、教科書のフォーメーションを用いて基本的な口頭練習を行った。その後、短い会話練習から最終的にはロールプレイを行い、レベル相応の複雑な文型や表現を用いて会話が展開できるように努めた。
読む	精読ではなく内容理解に重点を置き、読解作業の前後に関連したトピックで話す時間を多く持った。また、本文の音読練習にも力を入れた。
書く	2課に一度、教科書の読解に沿った内容のテーマで作文を書いた。原稿用紙に下書きをし、清書はクラスのウェブサイトへ書き込み、クラスメート同士で作文を読み、コメントし合えるようにした。
VIII 校外学習	
日 時	7月30日（金）

行き先	吉祥寺駅周辺
活動内容	ビジターセッションやインターネットの調査を通して各グループで決めた場所(店、見所、レストラン、娯楽施設)を数箇所まわり、吉祥寺ガイドブック作りのための情報を集めることを目標とした。しかし、当日あいにくの大雨だったため、予定を変更しても構わないからできるだけ屋根のある場所に留まるように指示した。この日もしくは後日調べた情報をもとにガイドブックを作成し、最終日には自分の体験談も交えた発表を行った。

IX 総括(良かった点、反省点、特色ある活動、今後の課題等)

(良かった点)

- ・ 既習項目を復習する形で始めた学生が多く、早いペースであったにも関わらず、学生間の能力差もそれほど出ず、スムーズに授業が進められた。既習事項が多かった分、プレイメントに不満を持つ学生も多少いたが、次第にそれぞれが自分の改善点を見出し、学習に取り込むことができた。また、クラスの雰囲気非常によく、学生同士が助け合い、気兼ねなく発言できるいい環境であった。
- ・ 単純な表現でタスクを達成しようとせず、新しい語彙や複雑な表現を駆使して自分のことを表現するよう6週間を通して徹底してきた。ほとんどの学生は数ヶ月から一年ほどの学習歴があったが、今まで持っていた言語知識を最終的には運用レベルに発展させることができた。

(反省点、今後の課題)

- ・ 日本での経験については話す機会を多く設けたが、もう少し教師の方からもオーセンティックな物を提供し、言葉だけでなく社会文化について触れられる機会があってもよかったと思われる。ビデオ教材として星新一のショートショートを見せたが、もう少し学生が自分の進歩を確認できるものや、文化について学べることのできる教材を選ぶべきであった。
- ・ 授業では「話す」「聞く」に重点を置いていたにも関わらず、評価が「読み」「書き」に偏っていたように感じた。特に話すことと書くことのバランスが悪い学生が多かったため、記述式のリスニングや会話文完成問題では不十分であった。話せる学生をもう少し評価できるようレッスンテストの度にスピーキングテストを入れればよかったと思う。そうすれば、反対に書けるにも関わらず話すことを苦手とする学生にとってもいい刺激になっただろう。
- ・ 人数が多かったせいか最終的に二人もの学生が途中でやめてしまったのは非常に残念であった。

C3	セクション A, B
I 担当講師名	
A: 佐々木真実(コースヘッド)、和泉貴志	B: 田中望美(ヘッド)、石山治
II 学生のうちわけ	
学生数 21名	A: 男性4名・女性6名、B: 男性7名 女性4名

国籍 A: アメリカ 6名、中国・韓国・イギリス・イタリア 各1名 B: アメリカ 9名、中国・イスラエル 各1名	
Ⅲ 教材（書名、扱った課の番号など）	
主教材	「Japanese for College Students, Basic Vol.3」
副教材	「げんきⅡ」「みんなの日本語 初級で読めるトピック 25」 自作プリント
視聴覚教材	「わくわく文法リスニング」「毎日の聞き取り 50 日初級 下」 「新・毎日の聞き取り 50 日中級 上」 ウェブサイト「江戸東京博物館」 歌「世界に一つだけの花」
Ⅳ コースの目標	
初級文法・語彙・漢字 400 字（うち 318 字既習）を習得する。 日常生活の様々な場面において正確に対応できる力を 4 技能バランス良く養う。	
Ⅴ 評価の基準	
レッスンテスト（5 回）	20%
期末試験（漢字、文法、読解）	20%
小テスト（漢字テスト、単語テスト）	10%
口答試験（2 回）	10%
口答発表（5 回）	5%
作文（2 回）	10%
作文テスト	5%
ディクテーション（5 回）	5%
聴解試験	5%
宿題	10%
Ⅵ 授業の構成（1 週間／1 課のうちのわけ）	
各課の文法の導入、練習に 2 コマをあて、漢字・読解・ロールプレーにもそれぞれ 1 コマないし、半コマをあてることとした。基本的に 1 週間で 2 課進み、レッスンテストの前に 2 課分の復習の時間を設けた。文法に関しては予習を原則とし、授業内では教科書のフォーメーションとドリルの口答練習で習得と定着をはかった。単語クイズと漢字クイズは 1 課につき 1 回実施した。	
Ⅶ 授業の内容	
① 聞き	副教材、または自作テキストから教科書で取り上げられている内容に関連した聞き取り問題を行った。2 課ごとに既習文型を使った短文のディクテーションを行った。
② 話し	フォーメーションとドリルを繰り返しの口答練習で行い、段階的に複雑な長文や会話が練習出来るように授業を進めた。授業で扱ったトピックについて 3 分程

③ 読み	度のスピーチをコース中に5回実施した。またビジターセッションでは教科書で取り上げられた日本のことわざについて日本人と話し合った。
④ 書き	主教材の読み物を行い、必要に応じ副教材または自作プリントを用いて読解練習を追加した。
	ビジターセッションでのインタビューと校外学習での経験をトピックに作文を2回執筆させた。各回とも第一稿は学生が自ら加筆修正できるよう、フィードバックを与えた。
VIII 校外学習	
日 時	7月30日(金曜日)
行 き 先	江戸東京博物館
活動内容	事前準備として、江戸東京博物館のウェブサイトから、展示の内容などの情報収集をした。 当日は、事前に調べて興味があった展示コーナーに行き、ウェブサイト上にあったクイズに答えたり、実際に体験したりして、江戸時代の生活や東京で起きた様々な出来事に触れた。 郊外学習後、各学生、一番興味があったことについて作文を提出し、クラスで発表した。
IX 総括(良かった点、反省点、特色ある活動、今後の課題等)	
<p>プレースメントの結果から、学習者の母語、出身校、男女比等のバランスが取れるように二つのセクションに分けた。両セクションとも主教材の学習項目が既習ではあるが運用能力に欠ける学習者が多かった。</p> <p>A: プレースメント後にレベルの移動を希望する者が多く出た。下のレベルへの移動を希望した者は変更させ、上のレベルへ移動を希望した者は既習項目の運用能力に欠けると判断し1名を除きとどめた。またC2、C4&C5からの移動もあった為、クラス内でのレベル差が懸念された。しかしレベルの高い者が、前向きな姿勢で、このレベルで学習する基礎文法の強固、漢字学習、語彙の習得に取り組んでいたのがクラス全体にいい影響となった。真面目で学習熱心な学生が多くクラスの雰囲気も非常によかった。反省点として、授業中の使用言語を日本語のみに徹底出来た学生と、そうでない学生の間でコース後半は顕著な差が見えた。後者に対して英語を使えない雰囲気作りをもっと厳しく行うべきだったか課題が残った。(佐々木)</p> <p>B: まず、クラスの雰囲気がとても良く、授業中は学生同士助け合っている場面が良く見られた。殆どの学生が教科書に出てくる文法を既に学習しており、フォーメーションドリルもとてもスムーズに進めることが出来た。また、それぞれの学生がクラスで求められていることや自分の苦手とする技能や文法を把握しており、個人セッションの時に効果的にその部分を練習することができた。また、クラスでの日本語使用を徹底したため、授業中は勿論のこと、個人セッションの時や授業外でも、日本語でコミュニケーションをとろうとする努力が見られた。</p> <p>反面、学生同士の仲が良くなるにつれ、クラスの緊張感が無くなってしまいうこともあった。チャイムが鳴らないため、授業開始時間が遅くなったりした。また、教師と学生の間では殆ど日本語でのコミュニケーションが見られたが、学生同士での日本語使用は定着していなかった。</p> <p>技能の面では、書く能力は高いのに対し、話す能力が低い学生が多く見られた。初級では話す能力に力を入れているため、もっと自信を持って話せるように練習する必要がある。短期間に新出文法(特に敬語や受身形・使役形)の口頭使用を定着させるのは難しかった。(田中)</p>	

共通の総括	
(良かった点)	
スピーチでは、事前に準備したスピーチの内容の発表に加えて、質疑応答も採点基準に加えることによって、他の学生の聞く態度が向上したと思われる。また、質問に答える練習を何度も重ねることによって、正確に答えられるようになった。	
(反省点、今後の課題)	
すでに述べたように両セッションとも主教材の既習者が多かったため、いかに彼らの学習意欲を維持させながら授業を進めることが全体的な課題だった。既に既習項目の運用力を持っていた学生には退屈と思われる授業内容があったように思われる。また、運用力に磨きをかける等、次の中級レベルへのステップアップを意識させる必要性を感じた。	
(佐々木・田中)	
C4	セッション
I 担当講師名	
萩原章子、神谷美由紀	
II 学生のうちわけ	
学生数 12名	男性5名・女性7名
国籍	
A: アメリカ 7名、中国 2名、台湾、イギリス、ポーランド各1名	
III 教材(書名、扱った課の番号など)	
主教材	日本語中級 J301 (スリーエーネットワーク)
副教材	ICU 中級コース漢字1、レベル別日本語多読ライブラリー
視聴覚教材	新毎日の聞き取り上下、テレビのニュース番組、アニメ「耳をすませば」、毎日の聞き取り上下など
IV コースの目標	
<p>(1) 新しい文法、表現、言葉、漢字を勉強し、正確に聞いたり、話したり、読んだり、書いたりできるようになる。</p> <p>(2) 書き言葉と話し言葉など、スタイルの違いがわかって使えるようになる。</p> <p>(3) 新規に学習した文法、表現、言葉、漢字を使いながら、正しい文体で、つながりのある文を作る。意見、感想などをまとめて発表する。</p> <p>(4) 日本人とのコミュニケーション、または、メディアを通して、日本事情・日本文化について学ぶ。</p>	
V 評価の基準	
レッスンテスト 2回	30%
期末試験	25%
最終口頭発表	10%
小テスト(漢字テスト、単語テスト、文法聞き取りテスト)	15%
宿題	10%
作文	5%
スピーチ	5%

VI 授業の構成（1週間／1課のうちわけ）	
<p>一課の内訳としては、基本的に文法2-3コマ、漢字1コマ、本文読解1-2コマ、聴解1コマのペースで進んだ。途中で適宜教科書以外の読解、ビデオ視聴、スピーチならびにスピーチの仕方指導、作文、日本語の歌を題材にした聞き取り練習を取り入れた。また、試験前には最低一時間の復習時間を設けた。</p>	
VII 授業の内容	
聞き	文法に関しては、教科書の本文中の目標文型を聞き取らせる練習を適宜取り入れた。また、全体的な内容把握の練習として、毎日の聞き取りやビデオを取り入れた。
読み	教科書本文以外には、「レベル別日本語多読ライブラリー」の読み物や、教科書の本文に関連した短い読み物などを用いて読解練習をした。教科書の本文では、内容の理解以外、名詞修飾節を探す練習に重点を置いた。
話し	スピーチを行う前に話す練習を取り入れ、ポーズの置き方やイントネーションなどの練習を積極的に行った。また、ビジターセッションで日本人と会話をする機会があったが、その前にも授業中と個人指導の時間を使って、何も読まずにスムーズに質問できるよう練習した。口答試験の前には、重点的に相槌の打ち方や相手の発言に対するコメントの仕方等も練習した。
書き	作文とプロジェクトのためのレポート作成を通じて、段落の作り方や接続表現などを練習した。いずれも、第一原稿は間違いに線をつけ、学生が自分でできるだけ直すよう促した。
VIII 校外学習	
日 時	8月5日（木）
行 き 先	江戸東京たてもの園
活動内容	藍染体験を行った。学芸員の方の指導を元に、各自藍染に取り組んだ。その後、ボランティアの方に質問しながら建物をいくつか見学した。
IX 総括（良かった点、反省点、特色ある活動、今後の課題等）	
<p>普段の授業ではかなり教師がコントロールした文型を用いて文法練習を行ったが、プロジェクトでは、学生が自由にいいたいことを表現できる機会を与えた。このプロジェクトは、普段の文法練習で習った語彙や表現、接続表現などを再確認し、文脈の中で使うためにもいい機会になったのではないかと思う。試験ではいい点数がとれなかった学生も、日本人へのインタビューや、発表の時は生き生きとしていたのが印象的であった。</p> <p>学生は、当初会話の間に相槌を打つことはほとんどなかったが、授業中意識させたところ、積極的にコメントしたり、うなずいたりするようになった。この習慣が今後も続いていけば、自然な会話に近づいていくのではないかと思う。</p> <p>今年のクラスにおいては、12人中2人が何らかの問題あるいは障害を抱えており、特に1人の学生はペアワークやグループワークが成立しないほど、他人の話を集中して聞くことが困難であった。このような状況も影響し、始めはクラスとしてのまとまりに多少欠けていた。しかし、徐々に学生間での仲間意識も高まり、最終的には誰とでも仲良く話せるような大変いい雰囲気で行えるようになった。学生たちは、問題を抱えている学生を障害したりすることもなく、ごく自然に普通の仲間として接していた。学生と授業を通じて接していく</p>	

うち、仮に何らかの問題を抱える者がいたとしても、思いやりを持って一緒に学ぼうとする姿勢があれば、学習面においても人間関係においてもよい結果が生まれるのだと実感した。学生の対処法に関して貴重な助言を下されたカウンセラーの先生、問題を抱えている学生にペースを合わせてくれた学生たちや、校外学習の時付き添ってくださった助手の方には特に感謝の意を表したい。

(反省点、今後の課題)

作文においては、引用や修辭疑問文の作り方などをもっと丁寧に指導すべきだった。特に、「。。という質問をしました。」と表現すべき文を、全く引用の形を取らないで終わらせる傾向があり、引用文の初めと終わりに注意を向けるのにだいぶ手間取ってしまった。修辭疑問文に関しては、口頭練習も取り入れ、作文でも口頭発表でも使わせるようにしたが、なかなか定着しなかった。産出の練習をする以前に、聞き取り練習や文章の中での使われ方に注目させたりする練習を取り入れたほうが効果的だったと思われる。

何らかの障害を抱えているかも知れない学生に関しては、大変対応が難しかった。特別扱いをしないように心がけても、現実的に他の学生と同じペースで学習できない学生を、他の学生と同様に扱うには限度があった。このような学生のための適切なレベルを選択するに当たっては、日本語能力以外の能力や本人の来日目的も考慮に入れるべきではないかと感じた。

C5	セクション A, B
I 担当講師名	
A: 成 永淑 (コースヘッド)、山川 史	B: ドーソン 静香、大村 麻文
II 学生のうちわけ	
学生数 ABともに18名	ABともに: 男性 4名・女性 14名
国籍	
A: アメリカ 4名、中国 2名、韓国 1名、ラトビア 1名	
B: アメリカ 7名、中国 2名、ドイツ 1名	
III 教材 (書名、扱った課の番号など)	
主教材	『日本語中級 J-501』スリーエーネットワーク (第1課～6課) 『ICU 中級コース 漢字2』国際基督教大学
副教材	パケット (漢字、文法、ことば、読解)
視聴覚教材	教科書: 『新毎日の聞き取り 50日 (上)』凡人社 映画: 「千と千尋の神隠し」 テレビ番組: 1) 「NHK おはよう日本 『宮崎駿インタビュー 崖の上のポニョ』」 2) 「プロフェッショナル 仕事の流儀」(花火師 野村陽一、歌舞伎俳優 坂東玉三郎) DVD 短編小説: 「ポッコちゃん」星新一

IV コースの目標																	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学生活に必要な日本語の力、「読む」「書く」「聞く」「話す」をのばす。 ・ いろいろなテーマについて自分の意見を言ったり、書いたりできるようになる。 ・ 新しい文法やことば、約 200 の漢字とその漢字を使ったことばを使えるようになる。 																	
V 評価の基準																	
聞く (ワークシート、テスト)	10%																
書く (作文、テスト)	10%																
話す (授業、スピーチ、テスト)	10%																
読む (授業、音読、宿題)	10%																
プロジェクト (準備、中間発表、発表、レポート)	15%																
デイリークイズ (漢字、文法、ことば、読解)	10%																
中間テスト (L1~L3)	15%																
期末テスト (L1~L6)	20%																
VI 授業の構成 (1 週間/1 課のうちわけ)																	
<p>授業は、主に「書く」「話す」「聞く」「読む」「プロジェクト」の内容別に行った。教科書は、週に約 1 課のペースで進めた。スケジュールは週により多少異なるが、およそ次のように行った。</p> <table border="0"> <tr> <td>教科書：漢字</td> <td>1~2 コマ/週</td> </tr> <tr> <td>文法</td> <td>1 コマ/週</td> </tr> <tr> <td>本文読解</td> <td>2 コマ/週</td> </tr> <tr> <td>ことば</td> <td>1 コマ/週</td> </tr> <tr> <td>その他：書く (作文)</td> <td>1 コマ/週</td> </tr> <tr> <td>話す (スピーチ、話し合い、討論)</td> <td>1~2 コマ/週</td> </tr> <tr> <td>聞く</td> <td>1 コマ/週</td> </tr> <tr> <td>プロジェクト</td> <td>1~2 コマ/週</td> </tr> </table> <p>その他、予習・復習の確認として、デイリークイズ (漢字、単語、読解、文法) を毎日実施した。またバケット (漢字、文法、ことば、読解) の練習問題を、ほぼ毎日宿題とした。</p>		教科書：漢字	1~2 コマ/週	文法	1 コマ/週	本文読解	2 コマ/週	ことば	1 コマ/週	その他：書く (作文)	1 コマ/週	話す (スピーチ、話し合い、討論)	1~2 コマ/週	聞く	1 コマ/週	プロジェクト	1~2 コマ/週
教科書：漢字	1~2 コマ/週																
文法	1 コマ/週																
本文読解	2 コマ/週																
ことば	1 コマ/週																
その他：書く (作文)	1 コマ/週																
話す (スピーチ、話し合い、討論)	1~2 コマ/週																
聞く	1 コマ/週																
プロジェクト	1~2 コマ/週																
VII 授業の内容																	
① 聞く	インタビュー、ドキュメンタリー、小説などさまざまなジャンルの日本語を題材とした。視聴覚教材とハンドアウトを使って、主に大意をつかむ内容理解の練習と具体的な表現やことばを聞き取る細部理解の練習やディクテーションを行った。また、聞き取りの後には学生がそれぞれの意見を述べ、理解を深めた。																
② 書く	話し言葉と書き言葉の違いや原稿用紙の使い方、日本語の作文構成、論文の書き方を学び、授業で学んだテーマについて書いていった。初稿後、教師がフィードバックをし、さらに推敲した。一つのテーマについて授業内で二度書く流れで進めた。																

③ 話す	授業内でのディスカッションに加え、「書く」、「読む」授業で扱ったテーマをもとに、話し合い（1回）、スピーチ（2回）、討論（2回）、ビジターセッション（1回）を行った。また、中級レベルで使う日常生活の表現とその口頭練習も行った。
④ 読む	教科書の本文を中心に進めた。また、速読用の短い読み物、ビジターセッションやプロジェクトに関連した読解資料も扱った。
⑤ プロジェクト	学生が日本で調べてみたいテーマを選び、アンケート調査→結果分析→中間報告→最終発表→報告書作成の流れで進めた。「話す」、「書く」授業と連動しながら、発表の仕方、報告書の書き方の指導も合わせて行った。
VIII 校外学習 無し	
日 時	
行 き 先	
活動内容	
IX 総括（良かった点、反省点、特色ある活動、今後の課題等）	
<p>良かった点（セクションA,B）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・猛暑が続いたが体調不良を訴える学生も出ず、コースを通してほぼ100%の出席率であった。 ・学生の学習意欲が大変高く、授業にも熱心に取り組んでいた。学生同士の仲も良くお互いを気遣う姿も見られ、両セッションのクラスの雰囲気はとても良かった。 ・日本語の作文に慣れていなかった学生が多かった中、授業内で継続的に書き、その都度フィードバックを行うことで、後半には書くスピード・量・質に上達が見られた。 ・作文とスピーチの内容が連動していたため、さまざまなテーマに対する自分の意見を、書くことと話すことの両面から取り組めた点は、内容が深まったという点で良かったのではないと思う。 ・C5で学んだ4技能を総合的に発揮する機会として、プロジェクトは効果的であったと思う。 ・コースの中盤（第四週）から、セクションAとBの担当教師を入れ替えたことにより、最後まで緊張感を持って授業が進められたと思う。 <p>反省点、今後の課題（セクションA,B）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後半は通常の授業内容に加え、プロジェクトの発表など、スケジュールがタイトになってしまった。もう少し時間的に余裕のあるスケジュール作りが必要であった。 ・中級前半のクラスとして、本文読解以外に速読にももう少し時間が費やせたら良かったのではと思う。 ・授業に対する予習や準備においては学生間で差が見られ、特に文法・読解ではそれがコース後半での運用能力にも影響したようであった。予習・復習の仕方と習慣化に対する指導がより必要であったように思う。 	

C6		セクション A																																											
I 担当講師名																																													
A: 中田 かおり、藤本 恭子																																													
II 学生のうちわけ																																													
学生数 10名		男性5名・女性5名																																											
国籍																																													
A: アメリカ 8名、香港 1名、ニュージーランド 1名																																													
III 教材(書名、扱った課の番号など)																																													
主教材		「日本語中級 J501」 —中級から上級へ— (L.7-10) スリーエーネットワーク																																											
副教材		1. 「ICU 中級コース3 漢字」 パケット 2. 「J 501 ことばのネットワーク」 パケット 3. 「文法練習」 パケット																																											
視聴覚教材		生教材) ニュース、ドラマ																																											
IV コースの目標																																													
<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでに習った文法や表現が正しく使えるように復習し、漢字(約200)、単語、文法、慣用表現の知識を増やし、正しく使えるようになる。 2. 状況や相手に応じて、適当なスタイルの自然な言葉が使える。 3. 話し言葉と書き言葉の使い分けができる。 4. 色々な接続詞を使って、段落レベルで話をしたり文を書いたりできる。 5. 自分の意見や考えなどが分かりやすく相手に伝えられる。 6. 自然な速さの生の日本語に慣れ、ニュースや会話を聞き取る力をつける。 7. 新聞記事や小説などの読み物の大体的内容を理解できるようになる。 8. 自分の日本語能力の長所、短所を明確に認識し、弱点を強化するためのストラテジーを自分で立てられるようになる。 9. 得た情報を自分の言葉で表現できるようになる。 10. 3人以上の人と話をする時に、人の話をよく聞き、タイミングよく会話に参加したり、スムーズなディスカッションができるようになる。 																																													
V 評価の基準																																													
<table border="1"> <tr> <td colspan="4">教科書</td> </tr> <tr> <td>クイズ(単語、漢字)</td> <td>15%</td> <td rowspan="5">}</td> <td rowspan="5">75%</td> </tr> <tr> <td>テスト(3回)</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>宿題(本文、文法、ことば)</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>作文(書いてみよう)</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>スピーチ(5回)</td> <td>10%</td> <td></td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td colspan="4">プロジェクト</td> </tr> <tr> <td>ワークシート</td> <td>1%</td> <td rowspan="4">}</td> <td rowspan="4">15%</td> </tr> <tr> <td>ドラフト1</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>ドラフト</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>発表</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>聞く クイズ</td> <td>3%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td>100%</td> </tr> </table>				教科書				クイズ(単語、漢字)	15%	}	75%	テスト(3回)	20%	期末試験	10%	宿題(本文、文法、ことば)	20%	作文(書いてみよう)	10%	スピーチ(5回)	10%		10%	プロジェクト				ワークシート	1%	}	15%	ドラフト1	4%	ドラフト	3%	発表	4%	聞く クイズ	3%			合計			100%
教科書																																													
クイズ(単語、漢字)	15%	}	75%																																										
テスト(3回)	20%																																												
期末試験	10%																																												
宿題(本文、文法、ことば)	20%																																												
作文(書いてみよう)	10%																																												
スピーチ(5回)	10%		10%																																										
プロジェクト																																													
ワークシート	1%	}	15%																																										
ドラフト1	4%																																												
ドラフト	3%																																												
発表	4%																																												
聞く クイズ	3%																																												
合計			100%																																										

VI 授業の構成 (1 週間/1 課のうちわけ)	
漢字 (一コマ) / ことば (一コマ) / 文法 (二コマ) / 本文 (二コマ) / 書く (二コマ) / 読む+話す (二コマ) / スピーチ (一コマ) / 聞く (一コマ)	
VII 授業の内容	
「読む+話す」の授業	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小説、エッセイや新聞記事を読む 2. 読んだものの内容について自分の言葉で説明する。 3. 自分の意見を言う。 4. ディスカッションする。
「書く」の授業	<ol style="list-style-type: none"> 1. 読んだり、聞いたりした課題内容をもとに様々な角度からものを考え、説明したり意見を述べる文章を正しい書き言葉を使って書く。 2. 文章の構成を考え、習った文法、単語、漢字を使って書く練習をする。 3. 手書きとワープロのどちらでも書けるよう練習する。
「聞く」の授業	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生のニュース、映画等を使用し、色々な分野の話し方に慣れる。 2. 聞き取ったことから、新しい文法、単語や表現を覚え、実際に使ってディスカッションする。
VIII 校外学習 無し	
日 時	
行 き 先	
活動内容	
IX 総括 (良かった点、反省点、特色ある活動、今後の課題等)	
<p>(中田)</p> <p>(良かった点)</p> <p>夏のプログラムを始めるにあたって、コース終了後も自分で日本語の力を更に伸ばしていけるように自分の日本語の学習のスタイルを身につけるといことをこの夏の大きな目標に掲げました。その第一歩として自分の日本語能力の長所、短所を明確に認識し、弱点を強化するための戦略を自分で立てられるようにするというを日々の授業で特に意識するように指導してきましたが、日頃の授業でのフィードバック、個別指導、作文指導のもとに、長所、短所の認識だけでなく、そこからそれらの点をどう改善していくのかということを各々、自分の勉強の戦略を立てられるようになったように見受けられます。例えば作文を書く時も、簡単な文法や語彙だけに留まらないように、新しく勉強した文法や表現のリストを作って、それを目の前に置いて作文を書くようにしているという学生や、授業で論理的にどう自分の考えを話すか予習の段階で細かい構想を練って、それをノート書き留めてくる学生等、日々の努力が随所に見られるようになりました。この夏身につけたこれらの戦略がこれからの日本語学習で更に力をつけていくための足がかりになればと思っています。</p>	

(反省点、今後の課題)
 中級から上級への橋渡しとして弱点強化の穴埋め作業がプログラム開始当初からの課題でしたが、やはり6週間という短い期間で、全てを細かく網羅するということができませんでした。各々が自覚した、又は、教師からのフィードバックで認識できた弱点を引き続き強化していく必要があると思います。

C7	
I 担当講師名	
ペーケン 眞佐子 (コースヘッド)	増田 恭子 (コースヘッド)
II 学生のうちわけ	
学生数 7名	男性 2名・女性 5名
国籍：アメリカ2名 (うち1名は継承語話者)、中国2名、デンマーク1名 (継承語話者) ベトナム1名、日本1名	
III 教材 (書名、扱った課の番号など)	
主教材	「どんな時どう使う日本語表現文型 500」アルク
副教材	教科書：「国境を越えて」新曜社 「上級へのとびら」くろしお出版 「論文ワークブック」くろしお出版 「大学・大学院留学生の日本語③論文読解編」アルク 「留学生のための論理的な文章の書き方」 スリーエーネットワーク 「日本語の発音レッスン」川和孝著 「Intermediate Kanji Book vol. 1 & vol. 2」凡人社 書籍：「佐賀のがばいばあちゃん」島田洋七著 「DATA 日本人の食生活 2008」 「日本の論点 2010」文藝春秋 新聞：朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、日経新聞 研究論文：「宮崎駿の映画における環境意識について」の一部 宇宙工学博士的川泰宣先生のエッセイ
視聴覚教材	「上級の手をつける聴解ストラテジー」(下) NHK 現代クローズアップ現代「ほめる力」「食の循環」 「傷だらけの帰還—探査機はやぶさの大航海」 DVD「博士の愛した数式」 Youtube「徹子の部屋」「古典落語・『目黒のさんま』」
IV コースの目標	
「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能において、日本語母語話者により近いレベルに達成し、日本語で行われている大学の授業に参加できるようになることを目指す。	

V 評価の基準			
中間試験	20%		
期末試験	20%		
文章プロジェクト（小論文と口頭発表）	20%		
小テスト（漢字・語彙テスト、聴解テスト）	10%		
スピーチ・討論などの口頭試験	10%		
作文	10%		
宿題	10%		
VI 授業の構成（1週間／1課のうちわけ）			
書き方（文章プロジェクト）	週3コマ	話し方	週3コマ
読み方（表現文型・速読を含む）	週7コマ	聴き方	週2コマ
*表現文型は読み物に出てくる文型などを中心に60程度練習した。			
VII 授業の内容			
読み方	週ごとにテーマを決め、様々な文章を通して、読解力、語彙・漢字力の強化に努めた。1週目は小説「佐賀のがばいばあちゃん」を読み、戦後の日本の生活や方言を学んだ。2週目は「ゲーム・宇宙」というテーマで、話し方の「ディベート」に繋げるように「子どもとゲーム」の記事を読み話し合い、日本の宇宙開発の新聞記事（「天声人語」を含む）をいくつか扱った。3週目は「フードマイレージ」や「日本の食料自給率」などの資料や評論（「日本の論点2010」）を通して、日本の食料問題について考えた。4週目は「環境問題」について扱った。日本語学習者の書いた論文を読み、批判的な読解練習をした。また、「温室効果ガス削減は可能か」（「日本の論点2010」）、新聞記事「原油流出 BP 赤字 1.5兆円」や「中国、新エネに65兆円」などを読み、最終的に自国における温室効果ガス削減に対する提案を作文に書かせた。5週目は日本における就職活動について読み、ビジターセッション、面接試験の準備にあてた。6週目は「企業内研修における異文化摩擦」（論文読解編）を読み、「高コンテクスト対低コンテクスト社会」などについて考え、話し合った。		
聴き方	週に一回、小テスト（短い会話や講義など）を行った。授業では今週のテーマに関連するドキュメンタリーを3本ほど見て、単語・文レベルの聞き取り（ディクテーション）と要点を聞きとる練習をした。ニュースのサイト http://news.tbs.co.jp （スクリプト掲載有り）を紹介し、聴解の弱い学生には授業外でも練習するように薦め、効果が出た学生もいた。中間テスト以降は学生の興味も考慮して選んだ映画を3週間に渡って扱った。発音の悪い学生のための早口言葉や授業で習ったことや日本の常識を交えたチーム対抗のクイズを数回行ったが、学生はこの時間は特に積極的に活動していた。		
書き方	「論文ワークブック」を使い、論文の書き方（序論、本論、結論）や引用の仕方などを学習したが、いざ論文を書き始めてみると、習ったことをすぐ応用するのに困難を感じている学生もいた。時間の関係で、初稿提出後1週間後に最終稿の提出となり厳しいスケジュールであったが、皆、自分の興味のあるトピックを選び、5000字程度の小論文を書き上げた。		
話し方	週ごとのプロジェクト形式をとった。「徹子の部屋」を参考に聴衆のいるイン		

ビジター	<p>タビューを試みたり、自作の小断を発表したりした。読解と連携し「子供にゲームは必要か」についてのディベートをおこなった。面接試験のシミュレーションを行い、態度や振る舞い、適切な話し方を学習し、「文化体験」についてのスピーチにより、論文発表に備えた。滑舌や発声練習などもおこない、特に人前で話すのが苦手な学生たちの話し方の改善に努めた。</p> <p>2 回行い、1 回目は就職活動中の ICU の学生二人と活発な話し合いが行なわれた。2 回目は、年配の方たち 4 名が来て下さり、丁寧な話し方の練習ができただけでなく、色々な人生経験、戦争体験など貴重なお話をうかがうことができた。</p>
VIII 校外学習	
日 時	7 月 23 日 (金)
行 き 先	東京江戸たても園
活動内容	<p>囲炉裏の部屋でボランティアの方の昔の物語を聞いたり、江戸時代から昭和にかけての建造物を見学し、日本への理解が深まった。暑さが心配だったが、大学から自転車で行った。運動不足の解消にもなり、学生も楽しんでいたようである。</p>
IX 総括 (良かった点、反省点、特色ある活動、今後の課題等)	
<p>(良かった点) 学生は皆まじめで、6 週間を通してよい雰囲気の中で学習できた。個人面談で話し合うことによって、学習者の一人一人が自分の苦手な点を自覚しながら学習できたと思う。また、前述したように、週ごとにテーマを決め、そのテーマで読解や聴解の授業や作文 (宿題) を行ったので、同じ語彙や漢字を繰り返し使うことができ、定着につながったようである。</p> <p>(特色ある活動) プロジェクト形式をとった話し方の授業は、週ごとに発表があり学生にとってはメリハリのある授業だったと思う。様々な形態の話し方、発表方法を通し、方法だけでなく内容が重要であることも学習できたと思う。また歓送会で行なった北原白秋の「お祭り」の詩のパフォーマンスも思い出に残るものとなったことだろう。</p> <p>(反省点、今後の課題) 中間試験後に、読解と聴解+文章 (書き方) の担当を交代した。学生のスキル別の伸びが把握しにくく、既習語彙・漢字などを考慮してのテスト作りが難しく問題となった。また、漢字圏・非漢字圏と継承語話者・非継承語話者と多様なバックグラウンドに対応した授業を最初から準備できなかった。 (執筆者: ベーケン眞佐子、増田恭子)</p>	